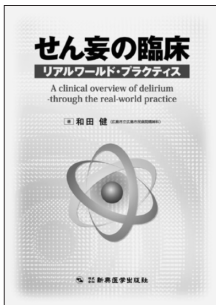


■ 書 評



せん妄の臨床 リアルワールド・プラクティス

和田 健 著
新興医学出版社
2012年5月
191頁、定価 4,410円

総合病院に働く精神科医にとって、診療依頼されることが最も多いのがせん妄である。せん妄は身体疾患に伴って生じるので、身体疾患への理解がまず必要である。また、せん妄の病態は多様で、診断や治療においても、さまざまな知識と対処法が求められる。俗な言い方をすれば、せん妄は実に奥が深い。総合病院精神科医の仕事は、せん妄に始まりせん妄に終わるといってもよいかもしれない。それだけでなく、治療においては依頼先の主治医との協働はもちろん、不穏になった患者に直接に対応する看護スタッフとのコミュニケーション、場合によっては家族への説明も重要である。この点で、患者と1対1の治療関係が中心となりがちな通常の精神科医療とは、また異なった診療スタイルが精神科医に求められることになる。

初めて総合病院に勤務する場合、あるいは精神科病院でも認知症患者などの多い病棟を担当した場合、いざせん妄の知識を得ようとする、せん妄についてのモノグラフがわが国には意外に少ないことに気づかされるであろう。日本総合病院精神医学会が「せん妄の治療指針」を作成し市販しているが、これはもっぱらせん妄の対処法について書かれたものである。今回わが国で初めてとなるような、本格的なせん妄のモノグラフが出版された。著者は総合病院精神医学の分野で活躍している気鋭の精神科医である。B5判で191ページもある大著で、せん妄のすべての医学的側面について十分な記載がなされている。

本書は3章構成となっている。第1章は理論編と題されたせん妄に関する広範な総説である。せん妄の診断と症候、疫学、病態、病因、さらに詳細な治療手順などが書かれている。しかし、本書の特徴は次の第2章であろう。ここでは実に25例にわたる多

様なせん妄の症例が提示されている。すべて著者が経験した症例のようである。この章のはじめには、病棟や外来でのせん妄診断の進め方、さらにうつ病や認知症との鑑別などが具体的な症例をあげながら述べられている。それに続く20例あまりの症例記載では、さまざまな身体疾患に伴って生じたせん妄の精密な症状記載と、経過を追った観察、同時に行われる薬物療法の工夫などが記述されている。それぞれは全体としてみるとかなり複雑な症例であるが、症例記載の前にはKey pointを示したコラムがあり、数行で全体を要領よくまとめているので、読み続けていても混乱することはない。また、せん妄の直接原因、準備因子、誘発因子についても1例ごとにまとめられており、せん妄が多くの要因によって発症することがおのずと明らかになるようになっていく。最後の第3章は症例編と題した練習問題である。4つの症例に沿って診断や治療法などについての質問があり、回答を選択することで、読者が自習しながら反復学習を行えるようになっていく。

図表は数多く用意され、精神科以外の薬物名は一般名と商品名が併記されるなど、著者が読者の理解のために細かな配慮を行っていることがうかがわれる。また、読書中の息抜きのように挿入されたコラムを読むと、総合病院の精神科病床が減少し、勤務する精神科医も少なくなっている現状に対する著者の鋭い問題意識と熱い使命感を感じさせられる。

書評子としてコメントするとすれば、せん妄の薬物療法において薬物の選択基準が読み取りにくいことであろうか。複雑な症例をあえてあげているので、アルゴリズム的な薬物選択は困難であろうが、原則的でシンプルな選択法を提示してもよかつたかもしれない。また、著者はトラゾドンを軽症例によく使用しているように見える。わが国では頻用されているものの、その有効性については議論のあることについても言及したほうがよいであろう。

大著であり一気に読みおえるような本ではないが、少しずつ読み進んでせん妄の理解を深めたり、臨床場面で困ったときに適宜参照したりするために、手元に置いておきたい一冊である。せん妄患者に日々接してその対応に追われている精神科医や、これから総合病院に勤務しようと考えている若手の精神科医には強く推薦したい。

(仙波 純一)